「昭和のまちづくり」に
さらなる賑わいを創出

豊後高田商工会議所（大分県　豊後高田市）

Copyright© The Small and Medium Enterprise Agency All rights reserved.

「昭和の町」の位置

至竹田津
城山鬼子母神
石段
高田中学校
住吉神社
桂川
下宮
桂橋
昭和の町
円福寺
中之島旅館
御玉児童遊園
213
商工会議所
消防署
泉屋旅館
勤労青少年ホーム
昭和ロマン蔵
駄菓子屋の夢博物館
市役所
県総合庁舎
警察署
中央公園
郵便局
至宇佐
至都甲方面

豊後高田市中心商店街の概要及び事業概要

- 大分県豊後高田市は、『仏の里』として名高い国東半島西側の中心都市
- 人口の郊外への移転とそれに伴う大型店などの商業施設の郊外出店に影響を受け、最盛期には4つの商店街で130店を超していた会員が49店にまで減少、空き店舗も27店舗になるなど、商業機能の空洞化が深刻化
- 中心市街地活性化のテーマが、昭和30年代の町並みを取り戻す『昭和の町』づくり
- 『昭和の町』づくりの一環として、空き店舗にコミュニティ施設を設置

豊後高田商工会議所　事務局
金谷　俊樹　氏へのインタビュー

Q．昭和のまちづくりを始めた経緯について

・人口1万8千人と小さい市で、大都市と同じ手法で活性化することは無理

・商店街が元気だった昭和30年代をテーマにすることに

Q．コミュニティ施設について

- コミュニティ施設活用事業を利用
  （国1/3、県1/3、市1/3　補助）

- 昭和のふれあい所「一休亭」という高齢者等交流施設を設置
  昭和の碁会所として、地元高齢者同士、地元高齢者と観光客等が囲碁や将棋を通して交流する

Ｑ．「一休亭」の運営について

- 立ち上げ時は国の補助金を活用
- 現在は、県の空き店舗対策事業として運営
（県が１／３、市が２／３の補助）

Ｑ．昭和の町の運営体系について

・　商業者、行政、商工会議所の３者が一体となって運営

＜ハード面＞　→　行政が支援

・昭和の建築を再生

＜ソフト面＞　→　商業者が主体的に

・昭和のお宝を見てもらう「一店一宝運動」

・店ならではの商品をお勧めする「一店一品運動」

商工会議所が橋渡し、調整機能を分担

Ｑ．観光客の状況について

- それまでほとんどいなかった観光客が

最大で１日30台の観光バス

1ヶ月　1万～2万人

1年間　20万人

店舗インタビュー
6号館　森川豊国堂（和菓子）
森川　克己　氏

- お店の名物は、冬は焼き菓子、
  夏はアイスキャンディ、ミルクセーキ

- 来街者の増加に驚いている。

店舗インタビュー
5号館　杵や（和菓子）
清末　浩一　氏

- Ｕターンで新たに店舗を開店
- 立ち上げには、国の空き店舗対策事業と県の商店街魅力UP事業を併用して活用
- お店の名物は、「石垣もち」「かんころもち」「ピーナツもち」「豆大福」

店舗インタビュー
12号館　瓦屋呉服店（呉服）
高井　博爾　氏

- 一店一宝は、呉服車（大八車）、明治時代の嫁入り衣装
- 昭和の町づくりは初年度７店舗、当店は初年度開店の各店の状況を見て、2年目に参加した。

店舗インタビュー
昭和ロマン蔵　館長
小宮　裕宣　氏

- 江戸時代末期の泥面子（面子のルーツとなるもの）から昭和50年代までのおもちゃ、日用品を展示（約50,000点）

- 40代以上のお客様は「懐かしい」と言って感動される。

関連ＵＲＬ

- 豊後高田商工会議所
（http://www2.megax.ne.jp/buntaka/）

- 豊後高田市昭和の町
（http://www2.megax.ne.jp/buntaka/shouwanomachi/shouwanomachi.htm）